

# 大会宣言

日本中国友好協会は6月11日、12日の両日、東京・中央区で第65回大会を開催しました。今大会は前回大会の三桁の純増に続き、会員・準会員の増勢のなかで開催され、全国各地から287人が集い、前大会以後に各地で取り組まれた多彩な活動が報告され、経験交流が深められました。

そのなかでは、立憲主義と民主主義を踏みにじって安倍政権が成立させた「安保法制」（戦争法）によって青年が再び戦場に送られる危険が増すなかで、協会の全国の仲間が幅広い市民運動の一翼を担い、「戦争法」の廃止を求める2000万人統一署名や街頭宣伝行動に取り組んだ活動が数多く報告されました。さらに、人間が人間であることを許さない戦争の実態と本質を明らかにする村瀬守保写真展や証言DVD上映普及活動、「平和のための戦争展」、中国人強制連行殉難者慰霊祭、7・7、9・18の記念集会や街頭宣伝、中国平和の旅、学習講演会などの不再戦平和活動も報告されました。そして、侵略戦争を正当化する政治家たちが、不戦を誓った平和憲法を壊そうとしている今、この改憲の企てを阻止し、国民が「殺し殺されることのない」平和な日本を守り、不戦の誓いをアジアと世界へ広げていくために全力をあげることを誓い合いました。

安倍政権に追随するかのようメディアの「中国脅威論」の喧伝によって国民の対中感情が悪化する一方で、訪日する中国人旅行者の増大と両国民間の交流、対日感情の好転などをとおして、日中両国関係の改善に向けての展望も見えています。普及40周年を迎えた太極拳をはじめ、中国語、きりえ、囲碁、映画、料理、音楽など、中国の文化に親しんでもらう活動は中国に対する親近感を強め、3回目を迎える中国百科検定と、留学生をはじめとした在日中国人との交流や訪中しての中国の市民との交流が、中国の姿を知り、「中国脅威論」を乗り越える相互理解を深めていることも明らかになりました。

困難な中でも2年連続での組織増勢を達成し、1年の間に1200人を超える新たな会員・準会員を迎え入れたこと、さらに新潟、所沢、大川・三潁、府中・調布の4支部が新たに結成されたことは、学習をとおして日中友好運動に確信を持ち、「外に打って出る」活動を広げていけば、日中友好運動に共感する仲間を増やすことができるとの確信を深めるものとなっています。この組織拡大強化の前進とともに、事務所移転による本部機能の強化と経費削減の努力による財政改善に向けての前進も、組織と運動の展望を切り拓くものとなりました。そして、組織の高齢化が指摘されているなか、「戦争法」の廃止を求める運動や中国百科検定への青年の参加は、日中友好運動の未来を担う青年層の結集への展望を広げています。

今大会の活発な討議をとおして、不再戦平和の誓いを基本にした日中両国民の草の根レベルでの交流が、両国民の信頼関係の醸成と両国関係の改善を実現させる力であることへの確信を深めました。今大会の大きな成果を力にして、私たちは侵略戦争の事実と教訓を伝える不再戦平和活動、日中両国民の相互理解と友好の心情を育む文化活動や友好交流活動を一層広げていきます。そして、「戦争法」を廃止させ、憲法改悪を阻止し、日中友好をアジアと世界の平和と安定につなげるために、幅広い市民とともに奮闘することを宣言します。

2016年6月12日

日本中国友好協会第65回大会